



涌小通信

知内町立涌元小学校
～重点教育目標～
主体的・対話的に学び、
自らを磨き、高め合う子
令和元年8月30日発行

子どもの心と体からの“サイン”を見逃さない

～自殺予防メッセージ；『死ぬんじゃねーぞ!!』（中川翔子著）より～

校長 三上 幸喜

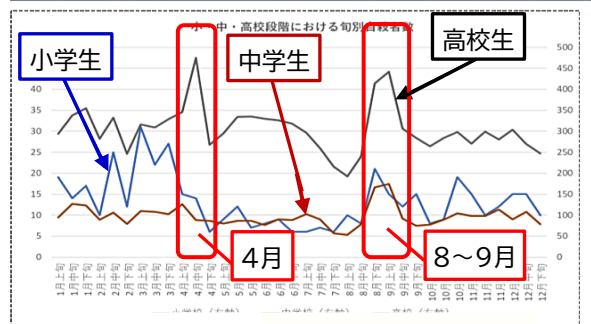
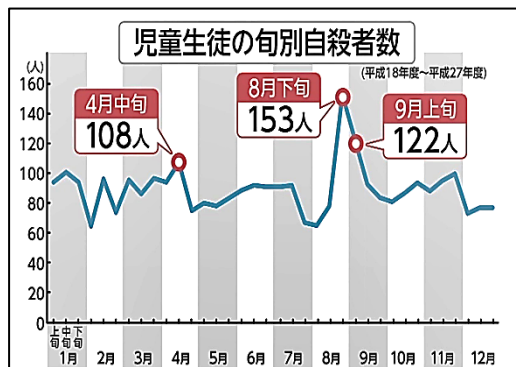
20日（火）から2学期がはじまり、全校児童が元気に登校してきました。始業式では、校長の話に続いて各学年の代表による、「夏休みの思い出と2学期に頑張ること」の発表が行われました。

夏休み期間中、交通事故や水の事故、病気等がなく元気に、楽しく過ごすことができましたようです。保護者や地域の皆様の見守りに心から感謝申し上げます。2学期も「元気いっぱい涌元小学校」を合い言葉に頑張っていきます。

さて、8月下旬から9月にかけて18歳以下（通学適齢期）の児童生徒の自殺者数が増加する傾向が見られます。なぜ、8月下旬から9月に自殺者数が多くなるかという点、本州で2学期がスタートするためと考えられます。

1学期間何とか登校し、クラスに馴染もうと頑張った児童生徒が、夏休みに入ると「明日から学校へ行かなくていいんだ」と精神的緊張等から一時的に解放されます。しかし、2学期がはじまる8月下旬には、「学校へ行かなければならない。」という切迫観念に襲われ、学校へ行けなくなります。不登校になるだけでなく、一人で悩み、誰にも相談できずに、自殺の道を選んでしまう児童生徒が多くなるためと分析されています。

○小学校段階では3月上旬、中学校段階では9月上旬、高校段階では4月中旬が最も多い。



FNN webNEWS 資料より

自殺総合対策推進センター通学適齢期の自殺者数に関する分析より

自身のいじめを受けた体験をもとに『死ぬんじゃねーぞ!!』いじめられている君はゼッタイ悪くない』という本を書いたタレントの中川翔子さんのインタビュー記事を紹介します。(8/18 朝日新聞 #withyou より)

中学校でひどいいじめにあった。入学してすぐに、私はいつもひとりで絵を描いているキモい子、というレッテルを貼られてしまった。無視され、陰口を言われ、つらすぎて吐いてしまうと『ゲロマシーン』と呼ばれ、心はぼろぼろ。死のうとしたこともあります。

中学時代の夏休みは、本当に腐っていました。早く休みにならないかな、と思いながら学校での時間を耐え忍び、やっと休みになると『あの人たちに会わなくていいんだ』と気が緩んで、朝までネットをやって昼夜逆転生活。でも、絵は描き続けていました。しんどい時に好きなことをやって身を守る、心を守ると言うことは、きっと未来につながる。夢のチャージ、未来の種まきになる。心から思います。 ……中略……

いじめた相手を見返す最高の方法は、自分なりの幸せを見つけること。死んだら、いじめた相手は後悔するのか。そうではないと思います。いじめた側は忘れて生きていくから。「自分の好きなことを大切に、幸せだなと思える瞬間にたどり着くこと」がリベンジだと思う。だから、どうか、死なないで。

子どもの大切な命を大人が力を合わせて、守っていきましょう。「ひとりじゃないよ」と伝えていきましょう。